

イギリス留学

1912年(大正元年)イギリスへ

トクヨの留学先はイギリスのバーグマン-オスターバーグ・フィジカル・トレーニング・カレッジ(通称:キングスフィールド体操専門学校)であった。この学校は、ロンドン市郊外のケント州ダートフォードにあった。当時の建物は、現在のノースウェスト・ケント・カレッジの校舎として残っており、昔のおもかげを今に伝えている。



学友と



バーグマン-オスターバーグ・フィジカル・トレーニング・カレッジ

マダム・オスターバーグとの出会い

トクヨの生涯に大きな影響を与えた人物が、この学校の創立者兼校長であるマルチナ・バーグマン-オスターバーグ(1849-1915)である。マダム・オスターバーグはスウェーデン人で、母国の王立中央体操学校を卒業後、ロンドン市学校委員会に招かれて、小学校と女学校にスウェーデン体操を普及する仕事を始めた。1885年マダムはロンドン市郊外のハンブステッドに体操専門学校を開設したが、これはイギリスにおける最初の組織的、計画的体操教師養成の試みであった。のちにケント州ダートフォードへ移転し、そこへトクヨが留学することになる。

全寮制のこの学校で、社会のために働く人間の育成に重きを置き、体育の技術だけではなく広い教養を身につけさせ、体育指導者として立派に社会で活躍しうる、すぐれた人格を育成しようとするマダムの教育方針に、トクヨは深い感銘を受けた。



マダム・オスターバーグ
トクヨを女子体育の使徒に目覚めさせたキングスフィールド体操専門学校校長



イギリスでの和服姿のトクヨ

展示品リスト

- ・マダム・オスターバーグ額装 マダム・オスターバーグの写真を自ら刺繍で縁取り、自室に飾っていた
- ・書類「留学を命ず」他
- ・電報「留学帰りの船より家族へ」
- ・オスターバーグからの手紙
- ・留学中の水泳講習会修了証
- ・辞令「叙高等官七等」留学後助教から教授へ
- ・キングスフィールド体操専門学校のアルバム
- ・書籍「スウェーデン体操講習会記録」大正5年12月
- ・書籍「体操通俗講話」大正6年8月
- ・書籍「足掛四年 一英国の女学界一」大正6年9月(昭和50年に復刊)
- ・書籍「男女幼学年児童に科すべき模擬体操の実際」大正7年5月
- ・書籍「女子体育生みの母 恩師 二階堂トクヨ先生」昭和22年7月(日本女子体育専門学校校友会刊)
- ・書籍「二階堂とくよ ロンドン通信」昭和28年11月(二階堂学園刊)
- ・書籍「女子体育の母 二階堂トクヨ伝」昭和33年11月(二階堂学園刊)

この学校でマダムは、簡単なヒダのあるチュニックをユニフォームとして採用した。しかしこの服装は女らしくない恐ろしい服装として目目に写った。当時、イギリスでの一般女性の服装は、コルセットやペチコートをつけて胸をしめ、腰を膨らませた足首まである長いスカートをはいていたので、当然身体活動は不自由になるがそれが女らしくとされていたのである。このチュニックの採用にもマダムの女性解放の精神が窺える。マダムはすべての職業が男性同様女性にも開かれることを期待しており、マダムの女子体操教師養成の仕事は、このような女性解放の思想の上に位置付けられる。

